

第5回
大工学講座

「秋の大山自然観察会」

昨年に引き続き、秋の自然観察会を行います。

講師の解説を聞きながら紅葉の美しい大山を、自然を満喫しましょう。



- ◆日時 11月3日(祝・火)
9時～12時予定(現地集合・解散)
- ◆コース 横手道コース
(榊水高原・横手道入口→博労座駐車場)
- ◆集合場所 ゴール地点(博労座駐車場)
受付8時30分～8時40分
マイクロバスで榊水高原(スタート地点)へ移動し、ゴール地点まで歩きます。
- ◆講師 大山自然観察指導員 鷲見 寛幸氏
- ◆参加費 無料
- ◆申込締切 10月19日(月)
定員24人になり次第締め切ります。
- ◆その他 ①少雨決行
②山歩きのできる服装でお越しください。
飲み物をご持参ください。
③名和公民館から集合場所まで送迎します。
(8時出発)
希望される方は申込みの際にお申し出下さい。
- ◆申込み・問い合わせ先
名和公民館 ☎0859-54-2688
なお、日程、内容は変更する場合があります。

まちのたから(7) 文化財室通信

木造阿弥陀如来及両脇侍像の巻

大山寺阿弥陀堂(国重要文化財)の本尊は、漆箔により金色に輝く姿が印象強い阿弥陀三尊で、国重要文化財に指定されており、指定名称は「木造阿弥陀如来及両脇侍像」となっています。

流れるような裳の感じがよく表現されています。光背は総高4・34mに及ぶ厳かなものです。

中尊の阿弥陀如来像は、定印を結んで八角形の裳懸座に結跏趺坐する重量感のある像で、高さ約2・67mです。立ち上がれば背丈が一丈六尺(約4・85m)の規模になることから、「丈六の弥陀」と呼ばれ、信仰されてきました。頭体幹部の前面部を枋材の巨木一材から木取りした一木造で、内割り(乾燥による亀裂防止や重量軽減のために、木像の内部をえぐって空洞にする技法)されています。胎内に残された墨書銘から、天承元年(1131)に大仏師良圓によって制作されたことが知られています。八角形の台座は総高1・78mで、薄く

左脇侍(向かって右側)の観音菩薩立像は像高2.7m、右脇侍の勢至菩薩立像は像高2・63mです。両脇侍とも半丈六を超える大きなもので、枋材を内割りした寄木造で、六重蓮華座の台座に載り、舟形拳身光背が つきます。

優麗典雅な作品であるこの阿弥陀如来及両脇侍像は、山陰地方を代表する平安時代後期の定朝様式の優品として高く評価されています。

平安時代後期の大山で



▲木造阿弥陀如来及両脇侍像

は、地藏菩薩の垂迹である大智明権現が信仰の中心となっていました。また、その頃は末法思想も広まりに伴って浄土教も大山に入っており、西方の極楽浄土の教主である阿弥陀如来への信仰が盛んになっていったよう、で、「丈六の弥陀」が大山において阿弥陀如来信仰が隆盛となった頃の様子を今に伝えていきます。

現在は、5月から11月の間、毎月18日に公開されています。(人権・社会教育課文化財室)